

『Mind Charging』

第 10 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 4 月 24 日

ウィンストン・チャーチルの名言



Kites rise highest against the wind – not with it.

凧が一番高く上がるのは、風に向かっている時である。風に流されている時ではない。

軍人、政治家という経歴を持ちながら、作家としてノーベル文学賞を受賞したウィンストン・チャーチルならではの表現だと思います。向かい風の中で進むのは大変なことです、そういう時にこそ人は成長するものだと思います。

私がこのコラムのタイトルを『Mind Charging』にした理由も同じです。こんな時だからこそできること、それは『充電』です。時間があるからこそ、時間に追われるように過ごしていた日常と違い、これまでのことを振り返りながら、今後に向けてゆっくりと準備ができるわけです。しっかりと助走を取った方がより大きくジャンプできます。日常を取り戻し、また過密スケジュールの中で過ごすようになって、少しでも今の自分を振り返り、次の自分に大いに期待しながら準備することを忘れずにいたいものですね。

(編集委員：入試広報室 鈴木)

ウィンストン・レナード・スペンサー＝チャーチル(英語: Sir Winston Leonard Spencer-Churchill, KG, OM, CH, TD, PC, DL, FRS, Hon. RA, 1874 年 11 月 30 日 - 1965 年 1 月 24 日)は、イギリスの政治家、軍人、作家。サンドハースト王立陸軍士官学校で軽騎兵連隊に所属し、第二次キューバ戦争を観戦し、イギリス領インド帝国でパシュトゥーン人反乱鎮圧戦、スーダン侵攻、第二次ボア戦争に従軍した。1900 年のイギリス総選挙にオールダム選挙区から保守党候補として初当選(当時:25 歳)。しかしジョゼフ・チェンバレンが保護貿易論を主張すると、自由貿易主義者として反発し保守党から自由党へ移籍した。ヘンリー・キャンベル＝バナマン自由党政権が発足すると、植民地省政務次官としてイギリスに併合されたボア人融和政策や中国人奴隷問題の処理など英領南アフリカ問題に取り組んだ。アスキス内閣では通商大臣・内務大臣に就任し、ロイド・ジョージとともに急進派として失業保険制度など社会改良政策に尽力、この体験を通じて暴動やストライキ運動に直面し社会主義への敵意を強めた。(Wikipedia 参照)